

ベナン月例報告（2013年1月）

1. 内政

- ・ 1日、ベスメヘラン（M.Dénis Hounsou GBESSEMEHLAN）氏が、アポナ（M.Emmanuel AKPONA）氏の定年退職に伴い、新ベナン軍参謀長に任命された。
- ・ 3日、ヌデベシ（M.Francois NOUDEGBESSI）前環境大臣が、ポルトノボで建設中の新国会議事堂・議員会館建設工事に関して不適当な費用管理、運営に関与したとして警察に召還された。同建設工事には、2004年に工事を開始して以来、すでに140億FCFAが投入されているにも拘わらず、長期間にわたり工事が中断している。数名の関係者が既に逮捕された。
- ・ 3日、ヤイ大統領は、ベナン電気エネルギー公社（SBEE : Société Béninoise d' énergie électrique）及びベナン水道公社（SONEB : Société Nationale des Eaux du Bénin）の利用料金を滞納している複数の国営企業総裁に対し、同2社が正常な運営を継続できるよう、できるだけ早い時期に、同2社に対して滞納料金の支払いを行うよう指示した。
- ・ 7日、電力不足を解消するため建設を急いでいたマリア・グレタ発電所において、全8基のタービンの試験運転中、1基のタービンで爆発が発生し、アメリカ人技術者が負傷した。
- ・ 16日、昨年3月に前大統領顧問であるアグボ（M.Lionel AGBO）氏が、テレビ番組で大統領を批判した件に関し、同氏に6ヶ月の懲役判決が下された。また、同番組を放映したテレビ局大手のCANAL3のカポサ（Mme.Berthe CAKPOSSA）代表に係る事件に荷担したとして3ヶ月の懲役判決を受けた。
- ・ 26日、マリア・グレタ火力発電所の建設工事を担当している米企業CAIのカヴィア（M.Mukund KAVIA）ベナン事務所代表は、工事はほぼ完了し、同発電所が近いうちにベナン政府に引き渡される旨記者団に述べた。

2. 外政

- ・ 4日、中国・ベナン文化協力関係40周年を記念して祝賀パーティが開催された。
- ・ 8日から11日、ヤイ大統領はカナダを訪問した。ハーパー（M. Stephen Harper）首相等と会談し、二国間協力強化、民間投資の拡大等について議論した。
- ・ 11日、ヤイ大統領は、マリ軍支援のためMISMAに対し300名の派兵を決定した。これに対し、野党側は大統領が国民議会の承認を得ずに派兵を決定したとして反発した。
- ・ 14日から23日、アウェケ（M.Max Barthélémy AHOUEKE）通信・情報通信技術大臣が日本を訪問し、柴山総務副大臣、松山外務副大臣と会談した他、NTTdocomo、NHK等の民間企業を視察した。

- ・ 18日、約30人の先遣部隊がマリに向けて出発した。同部隊は、直接戦闘には参加せず、後発部隊270人が到着するまでの準備活動にあたる。
- ・ 19日、ヤイ大統領は、アビジャンにおいて開催された ECOWAS 臨時首脳会議に出席後、マリへの派兵を当初の300人から650人へと増員する旨決定した。650人のうち、500人は実働部隊として、残りの150人は、監視や治安維持にあたる。
- ・ 21日、外交団がヤイ大統領に新年の挨拶を行った。
- ・ 22日から25日、ヤイ大統領は独を訪問した。メルケル(Mme.Angela MERKEL)首相らと会談し、二国間協力強化等について議論した。また独は、460億 FCFAの開発援助を約束した。
- ・ 27日、アディス・アベバで第20回 AU 総会が開催され、ヤイ大統領が AU 議長としての1年の任期を終えた。
- ・ 29日、ヤイ大統領は、AU 総会のアフリカ主導国際マリ支援ミッション(AFISMA)支援会合にて、AU が行う総額5千万ドルの支援に加え、ベナンとして個別に200万ドルの(10億 FCFA)を支援する旨発表した。
- ・ 30日、アニアンボス(M.Jules-Armand ANIAMBOSSOU)氏が在仏ベナン大使に任命された。
- ・ 塚原駐ベナン日本大使が、スマヌウ(M.Alassane SOUMANOU)中等教育・技術職業訓練・再教育・青年統合大臣、ベド(Mme.Akuavi Marie-Elise Christina GBEDO)国璽尚書・法務・法制・人権大臣(当時)等複数の閣僚を表敬訪問した。

3. 経済

- ・ 1日、アジャボン(M.Sebastien AJAVON)ベナン経団連会長は新年の挨拶を行い、ベナン経済のフォーマル化の必要性を訴えた。
- ・ 8日、西アフリカ地域証券取引所の取引総額が2012年12月31日以降、4兆 FCFAを突破した。2012年11月23日に株式分割を実施したセネガルの携帯電話会社大手 SONATEL SN 社の株式の流動性が増したことが大きな要因。

4. 開発・協力

- ・ 「病院及び保健センター設備整備のための120日」の実施が決定した。複数のドナーにより約20億 FCFA が支援される見込み。
- ・ 5日、中国の借款によるアカサト(Akassato)・ボイコン(Bohicon)間道路整備事業の竣工式が開催された。借款総額は、1070億 FCFA に上る。また、中国は同日、アボメ・カラビ(Abomey-Calavi)市において100基の井戸を建設する旨発表した。
- ・ 22日、中国がベナンに対し、社会経済開発に用いる目的で100億 FCFA の供与

を行った。

- ・ 23日、テロ犯罪により効果的に対処するため、西アフリカ16カ国を集めたワークショップがEUの支援により開催され、警察情報の交換体制が整備されることが決定した。

5. 社会

- ・ 10日、ベナン発祥のブドゥ教の祭りがベナン各地で開かれた。
- ・ 17日、マリ北部の紛争と、それによるベナンへのイスラム教活動家の流入を受けて、デグラ（M. Benoit Assouan Comlan DEGLA）内務・公安・宗務大臣は、ベナン・イスラム連合（L' Union Islamique du Bénin）の認定を受けていないイスラム教活動家を国外追放する旨決定した。ベナン・イスラム連合も同決定を支持している。同日、3人のコンゴ人イスラム教活動家が、違法な布教活動をし、宗教間融和を損ねたとしてコトヌ中央警察署に拘留され、18日に国外追放された。
- ・ 21日、十数人のベナン人児童が、ナイジェリアに向けて輸送されようとしているところを、ベナン・ナイジェリア国境で保護された。
- ・ 25日、8歳から20歳までの52人の未成年者が、ナイジェリアに向けて輸送されようとしているところを、クラケ（Kraké）警察署の家宅捜索により保護された。

6. 治安

- ・ 18日、ポルトノボ近郊ジェレベ（Djrèbé）において、違法ガソリンの取締りを巡って、治安部隊と住民が衝突し、一人が死亡、数人の負傷者がでた。